

夏季特別企画 後編  
◇東洋経済新報 昭和十年十月二十六日号

## 『自由主義を語る』……座談会

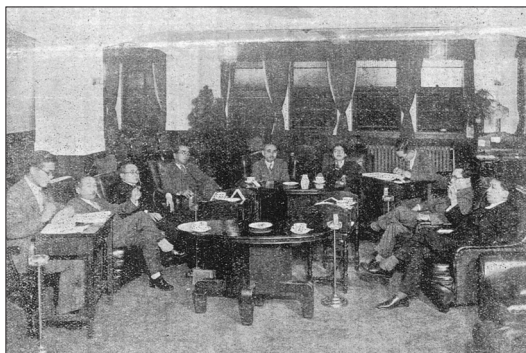
昭和十年十月十日・十一日 於東洋経済新報社

\*今回、夏季特別企画として、今日的な意義が十分あると考え、1935年の『週刊東洋経済新報』誌上で行われた座談会「自由主義を語る」を、2回に分けて、『講演録』誌上に転載します。この座談会が開催された1935年当時は、満州事変（31年）、5・15事件（32年）、国際連盟脱退（33年）、京大・滝川事件（34年）、天皇機関説問題（35年）などがあり、翌36年には2・26事件が起きています。つまり、年を追うごとに軍国主義化が強まり、言論にも抑圧的な空気が濃くなっていた時代です。そうした時代背景の中、自由主義論争を取り上げる雑誌はいくつかありましたが、かねて自由主義的な編集内容で定評のあった『週刊東洋経済新報』では2晩に亘り座談会を開催しました。出席者は当時、自由主義を論じるに相応しい著名な学者や言論人達ですが、同時に経済倶楽部創設時の常連講師でもありました。なお、一部、旧字や古い表記については改めました。

### 出席者（順序不同）

自由主義を  
語る……座談会  
昭和十年十月十一日  
於東洋経済新報社

戸坂潤 室伏高信 石井満洲 清澤冽 赤松磨 杉森孝次郎 加田哲二 蠟山政道 今中次磨 大島次磨 長谷川如是閑 石橋湛山



氏諸の澤清、森杉、田加、橋石、島大、者記速、坂戸、伏室 りよ右、夜の日の十